

9月浦郡市議会傍聴記 ①

地方政治
クリエイティブ
伊藤 秀昭

■障害者福祉

障害者が安心して暮らせるまちづくりについて取り上げたのは新実祥悟氏(無所属)。

新実氏は質問の冒頭に、7月26日未明に起きた神奈川県の障害者支援施設での殺傷事件について市や県の対応を聞いた。

市民福祉部長は犠牲になられた方へのお悔やみを述べながら「障害者相談支援事業所等と連携し、障害者が安心して暮らせるまちづくりを推進していく。県においても防犯対策の確認等の総点検をしているのでこれに基

つき、安全確保への対策に期待したい」と答えた。

悲惨な事件から1カ月以上経過しているだけに、この問題の再発防止策などについて、現場からも多くの課題が提起されており、もっと議論してほしいと述べた。

■蒲郡みかん

蒲郡の農業の根幹をなしているのが柑橘農業。年間を通じて全国でおいしいみかんが喜ばれているが、2011年から続いている台湾への輸出を当面、見合わせるようになったことなどを聞いたのは鎌田篤司氏(自民)。

産業環境部長は「15年度は15トを台湾で人気のあるS、Sサイズを中心に輸出している。台湾入国時の残留農薬検査で不合格となったのは、台湾と日本での基準値が異なっているからで、不合格となった7・5トは香港へ送ったが、

地域公共交通の在り方を論じた。現在、70歳以上の高齢者への高齢者割引タクシーチケットについて、見直す観点から議論されたが、文字通り高齢者の足確保は生命線であり、まちは足腰の弱体化から衰退が始まる。地域公共交通

切磋琢磨した鍛えの成果をみせ!

問題なく受け入れられた。台湾、香港、カナダなどで基準値の緩和が進んでいるので、これまで以上に海外への輸出が見込める」とした。海外ビジネスの難しさを浮き彫りにした質問だった。

■地域公共交通

松本昌成氏(公明)は少子高齢化の中で

■大型クルーズ船誘致
青山義明氏(自民)は大型クルーズ船誘致について提案した。

当局は「我が国のクルーズ市場は活況著しいが、九州沖縄に集中しており、観光庁の海外クルーズ船社等招致事業、国

問題は採算性よりも福祉政策ととらえるべき」ではあるが、そこには当然ながら限界がある。名鉄西尾・蒲郡線の存続問題も、同じで、いつまでも補助できるとは限らない。少子高齢化の影はひしひしと押し寄せ

■ごみ屋敷
稲吉郭哲氏(自由クラブ)は市のごみ屋敷の現状と今後の対応について聞いた。

産業環境部長は「5件のごみ屋敷を把握し、1件が調査中であり、継続的に定期訪問、説得を続けている」とし、他自治体の条例などの制

土交通省の全国クルーズ活性化会議などがあることは承知している。蒲郡港への寄港の見込みはないが、11号岸壁の物流拠点としてのさらなる利用促進のために誘致活動を進めていきたい」とした。

■アワビの陸上養殖
蒲郡の新たな水産業を創出し、将来の組みが行われているあわびの陸上養殖について議論したのは

生活支援の観点から総合的な対策が必要であり、対策検討会を立ち上げていくとし、この問題の難しさを浮き彫りにした。

企画部長は「飼育水の水质や温度などから困難がつきまわっているが、三谷水産高校との協力体制や産学官の連携で取り組んできた。陸上養殖の技術の確立には至っていない現状で、丸3年となる今年度で一つの区切り

にした。今後は産学官連携事業として展開できるように調整していくとした。

世界で初めて完全養殖に成功した近大マグロの産業化までの壮絶な歴史と比べればまだまだ3年。歴史は簡単には創れない。

課題山積の地方議会の中で、16人の議員の質問が続いた。中でも、地域医療、創生戦略、新総合事業、子育て支援、在宅看取(みと)り、広域連合などの重要項目について論ずる議員が偏在しているのは残念。一般質問では議員各氏の鍛えの成果を切磋琢磨(せつさたくま)して見せてほしい。